

北欧イノベーションエコシステムニュース

TechBBQは、[デンマークのクリーンテックエコシステムに関する緻密な分析レポート](#)を先週発表しました。その中から特に投資関連の主要トピックをここでご紹介します。

現在デンマークのエコシステムを形成している計4028社のスタートアップとスケールアップのうち、409社はインパクトスタートアップ（持続可能性と、社会または環境へのポジティブな影響、そして経済的利益が同時に生成されることを意味する）に分類することができます。このうちの310社がクリーンテックとされ、デンマークのインパクトスタートアップの中で極めて重要な業種です。今回の分析はこれら310社を基に行われました。

デンマークエネルギー技術拠点の具体例：スマートグリッド、IoT & デジタルインフラ、蓄熱、洋上風力発電、エネルギー高効率技術、バイオエネルギー技術、発電所エネルギー、燃料電池、セントラルヒーティング技術など。

デンマーク環境技術拠点の具体例：新素材、循環型生産とビジネスモデル、生物多様性、土地利用と大気質、廃水・廃棄物処理の最適化、土地と大気汚染の緩和など。

デンマークのクリーンテックスタートアップ310社の内訳は、シードステージ184社、アーリーステージ95社、レイトステージ29社、不明2社。実際に提供された資金に関しては、310社全体に対し、投資の割合はわずか33%で、投資情報を開示しているのは64社です。データによると平均投資額は2260万DKK（約3億8650万円）、最高投資額は2億6700万DKK（約45億6670万円）。各カテゴリー別スタートアップの詳細についてはTechBBQまでお問い合わせください。

環境対策への意識やその必要性の高まり、そして持続可能な新ソリューションがますます求められている一方で、クリーンテック系スタートアップへの2016-2020年全体の投資比率は、ライフサイエンスの18%、ICTの62%に対し、わずか7%。新規のクリーンテックベンチャーは人気度が低く、VC投資家の目がなかなか向かないのが現状です。

マサチューセッツ工科大学が実施した調査によると、ライフサイエンスやICTが投資家の人気を集める理由の一つとして考えられるのは、投資利益率(ROI)の高さのようです。またスウェーデンや英国と比べてデンマークのVC業界が小規模であることも別の要因かもしれません。2019年のデンマークでの投資総額は40億DKK(約688億円)。それに対しスウェーデンは70-370億DKK(約1兆2050億~6兆3690億円)、イギリスでは37-1430億DKK(約6370億~2兆4610億円)です。一般的に、小規模なVC業界はその投資をより細かく業種別に区分する傾向があります。

VC投資家にとってのもう一つの問題は、そもそもクリーンテックベンチャーが非常に資本集約的で、技術開発に重点を置いて長期にわたる商業化パイプラインを有していることです。加えてクリーンテック開発のパイプラインは、ライフサイエンスなどと比べてわかりにくく、あまり構造化されていません。このことは一般的にR&Dやプロトタイプングの段階後の企業に関心のあるVC投資家にとって、負影響や未知の要因というリスクを高めます。

レポートにはクリーンテック投資の構造的問題の解決に向けた改善案なども幾つか提示しています。北欧のインパクト投資（主にクリーンテック企業）にご興味のある投資家の方々は、下記の組織もご参照ください。

- **Norrskan Foundation:** インパクトスタートアップにフォーカスしたスウェーデンの非営利財団。創業者の一人はフィンテックのユニコーン企業Klarna。2019年に持続可能性を重視する新企業対象に1億ユーロを投資する新投資ファンドをクローズした。2020年にはスウェーデンが本社の大手プライベートエクイティファンドNordic Capitalと提携し、61億ユーロのFund Xをクローズしている。

- **Nordic Impact:** ノルウェーのインパクト投資ファンド。アーリーステージのインパクトスタートアップの幅広いポートフォリオを揃える。インパクトにフォーカスするKatapult Acceleratorと、北欧のインパクト投資家、投資活動やコミュニティをつなぐNordic Impact Investment Networkを運営するドライバーでもある。

- **+Impact:** 北欧のインパクトコミュニティ最大のデジタルプラットフォーム。1000社以上のインパクトスタートアップと投資家をつなぎ、インパクトに特化したエコシステムの包括的データを提供。投資家にはNorrskan, Nordic Ninja, Katapult Acceleratorなど。

北欧ニュースダイジェスト

- DK 余剰食品のマーケットプレイスToo Good to Go、VC企業blisce/の主導で約32億6930万円の資金を確保。資金は米国を主とする事業拡大に充てられる。
- DK ワイン紹介とマーケットプレースのアプリVivino、約162億8300万円を調達。
- SE 電気トラックメーカーVolta Trucks、約20億9800万円を調達。
- SE ゲーム開発会社のFatshark、Tencentからおよそ10億4300万円を確保。
- NO 暗号通貨取引所のNorwegian Block Exchange、Pareto Securities主催の取引で約7億4300万円を調達。
- NO トヨタモーターヨーロッパとCorvus Energy、持続可能な大型海事認定船用燃料電池システムの開発と生産に関する覚書を締結。
- FI ユニコーン企業Wolt、小売と食料品への事業拡大に約547億円超を調達。
- IS デジタルデザインエージェンシーのUeno、ツイッターが買収。
- EE ロボット宅配業者 Starship、Hinrikus 他から約17億8000万円を調達。

「RUNDIT」インタビュー

テックソリューションの内容や分野は？

Runditは、ベンチャーキャピタリストやプライベートエクイティ法人向けに、イノベティブなポートフォリオ管理、モニタリング、レポート用ソフトウェアツールを提供しています。現在ヨーロッパ、米国、東南アジア、中東の30を超える国で顧客を獲得しています。また、企業が資金調達を試みる際には当社のソリューションを利用すれば5500社超のグローバルVCネットワークへアクセス出来ます。

なぜ日本のイノベーションエコシステムや市場に関心が？

Runditのポートフォリオ管理、モニタリングソフトは国を問わず使えるので、ヨーロッパの顧客と同様に日本の顧客のニーズにも答えることが出来ます。ですから日本のVCや投資家を当社のネットワークに組み込んでいきたいと考えています。日本には投資先となるイノベティブな技術ソリューションがあり、私たちもその大規模な市場についてもっと学びたいのです。当社のソリューションは欧州と北欧の企業を日本のエコシステムに紹介するのにはうってつけで、逆もまた然りです。新しいアイデアや技術的な交流が日本と北欧の間で始まっているので、双方のエコシステムのインタラクションを喚起していくことはとてもいいことだと思います。

身近に日本での実績を活用している組織、行政機関や個人の成功事例は？

日本での成功で名が知られているフィンランドのゲーム会社は数社あります。私の友人カップルもMUSUTAというデザイン会社を日本で立ち上げ、ビジネスが軌道に乗っているようです。日本人は北欧やフィンランドのデザインに親近感を持っていることがわらうので、私には驚きでした。フィンランドの企業と日本の相手先企業との提携は今まで比較的うまくいっているケースが多いようですが、まだ改善の余地はあると思います。言葉と文化の違いが依然として参入障壁となっていると思いますが、これは時間の経過とともに、特に世界的デジタル化がさらに進むにつれ徐々に超えやすくなっていくと思います。



名前: Pekka Viilto
 役職: 営業部長&共同創設者
 社名: Rundit(ルンディット)
 エコシステムの所在地: フィンランド、ヘルシンキ
 設立: 2016年
 連絡先: pekka@rundit.com

お知らせ

- イベント 2月23日 「EU、北欧におけるデジタルヘルス、デジタルソリューション償還への紆余曲折」 Copenhagen Capacity と Digital Therapeutics Allianceの共同主催によるウェビナー。
- イベント 2月24日 “Scaling Nordics to Asia”(北欧からアジアへのスケールアップ) - 第3回ノルディック・イノベーション・ハウス(NIH)情報ウェビナー。NIHシンガポール、香港、東京の各オフィスから、それぞれの都市で行っている北欧スタートアップ、スケールアップ、成長企業向けビジネス支援について紹介する。
- イベント 3月9-11日 UNLEASH TOKYO 東京でのビジネスチャンスを紹介する大規模オンラインイベント。グローバルに活躍する日本企業、国際企業、東京をよく知る日本国内外のインフルエンサーら講演者多数。参加費無料。参加はInvest Tokyoの公式YouTubeチャンネルから。
- イベント 3月17日 “Startup Capital” - TechBBQ主催によるバーチャルマッチメイキングイベント。北欧とパルト三国のプレジデント、シード、シリーズAのスタートアップと世界の投資家を繋ぐ。参加費無料。日本の投資家の方々はぜひ参加を！昨年のミーティング数は4時間で250以上を達成。応募締切2月21日。

編集者



ピーター・ヨハンセン
 プロジェクトマネージャー
pj@asia-house.dk



ユリアン・森江・原・ニルセン
 日本担当コンサルタント
jni@techbbq.org

INNOVATION LAB ASIA

「イノベーション・ラボ・アジア」はデンマーク産業財団の支援の下でAsia HouseとTechBBQが共同で運営するプロジェクトです。詳しい内容については以下からご覧ください。



報告書(日本関連)



[全ての報告書を見る](#)

